

21



現状のデバイスのデータを編集したい！

21.1	現状のデバイスのデータを編集してみよう！	21-2
21.2	設定ガイド	21-5

21.1 現状のデバイスのデータを編集してみよう！

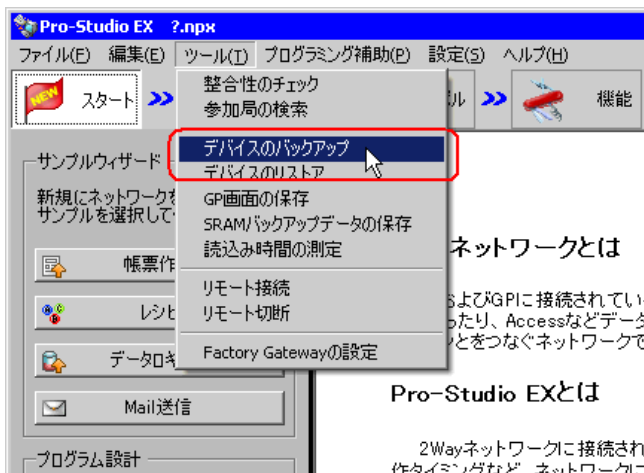
接続機器のデバイスデータを簡単設定で編集することができます。

ただし、編集できるデータは連続デバイスに限りますので、メンテナンス時などで一部のデータのみバックアップ／編集する状況でご利用いただくことをおすすめします。

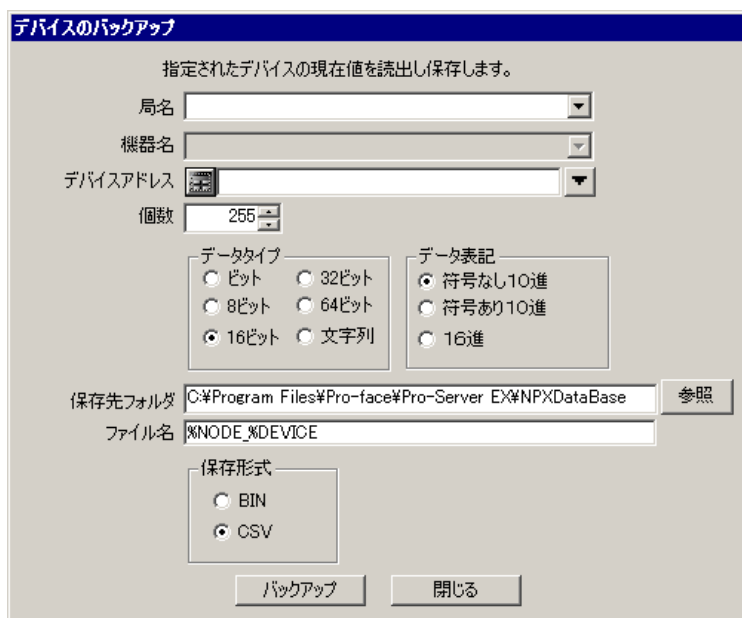
MEMO

- バックアップ／編集したデータは、次項の「第 22 章 編集したデバイスのデータを戻したい！」で接続機器に格納することができます。

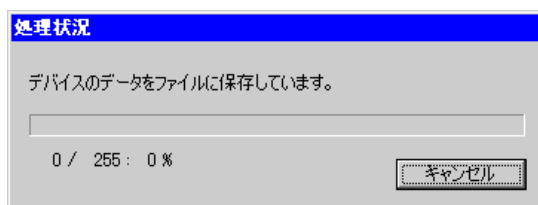
- 1 メニューバーの [ツール] から、[デバイスのバックアップ] をクリックします。



- 2 「デバイスのバックアップ」画面の各項目を設定し、[バックアップ] ボタンをクリックします。



「処理状況」画面が表示され、バックアップ処理の経過が表示されます。



MEMO

- ・「デバイスのバックアップ」画面で設定した内容が正しくない場合、以下のメッセージが表示されます。

メッセージの内容	対処方法
ビットでのバックアップは255までの数を指定してください。	[個数] の値を1～255の間に設定し直してから、バックアップを実行してください。
ビット型のシンボルはビット以外でバックアップできません。	[デバイスアドレス] にビット型のシンボルを設定している場合、ビット型以外のデータタイプではバックアップできません。データタイプを「ビット」に設定し直してから、バックアップを実行してください。
ビット型以外のシンボルはビットでバックアップできません。	[デバイスアドレス] にビット型以外のシンボルを設定している場合、ビット型のデータタイプではバックアップできません。データタイプを「ビット」以外に設定し直してから、バックアップを実行してください。
バックアップするデータの数が不正です。	バックアップするデバイスの個数を最大個数内におさめ、バックアップを再度実行してください。 バックアップできるデバイスの最大個数は、そのデバイスのデータタイプなどにより異なります。
指定されたデバイスは未定義なシンボルか不正なアドレスです。	[デバイスアドレス] をアクセス可能なデバイスアドレスまたはシンボルに設定してください。 また [データタイプ] も使用可能なデータタイプに設定してからバックアップを再度実行してください。

データが正常に保存されると、「デバイスのバックアップは正常に終了しました。」というメッセージが表示されます。

[OK] ボタンをクリックすると、処理を終了します。



CSV 形式のデータ内容は、以下の通りです。

局名、(バックアップ元の局名)

機器名、(バックアップ元の接続機器)

デバイス名、(バックアップ開始のデバイスアドレス)

個数、(バックアップ個数)

デバイス長、(バックアップしたデバイスのビット数)

データタイプ、ビット、符号なし 10 進、符号あり 10 進、16 進、文字列のいずれか

日付、(バックアップした日付)

データ、コメント

(第 1 デバイスアドレスの値)、(第 1 デバイスアドレス名)

(第 2 デバイスアドレスの値)、(第 2 デバイスアドレス名)

MEMO

- バックアップした日付は、「(年) / (月) / (日) (スペース) (時) : (分)」のフォーマットで書き込まれます。ただし (分) のみ、1 けたの場合は 0 を補完します。
 - TIME 型、TIME_OF_DAY 型、DATE 型、DATE_AND_TIME 型の値はバイナリ値で保存されます。
 - 文字列表示については「27.8 日付と時間のバイナリ / 文字列表示変換」を参照してください。
-

21.2 設定ガイド

デバイスのバックアップ

指定されたデバイスの現在値を読み出し保存します。

局名

機器名

デバイスアドレス

個数

データタイプ

☐ ビット ☐ 32ビット

☐ 8ビット ☐ 64ビット

☒ 16ビット ☐ 文字列

データ表記

☒ 符号なし10進

☐ 符号あり10進

☐ 16進

保存先フォルダ C:\Program Files\Pro-face\Pro-Server EX\NPXDataBase

ファイル名 *NODE_#DEVICE

保存形式

☐ BIN

☒ CSV

設定項目	設定内容
局名	デバイスデータを読み出す参加局を選択します。 リストには、ロード中のネットワークプロジェクトファイルに登録されている参加局が表示されます。
機器名	デバイスデータを読み出す接続機器を選択します。
デバイスアドレス	データを読み出すデバイスの先頭となるデバイスアドレスまたはシンボルを入力します。 MEMO ・ [保存形式] を [BIN] に設定する場合は、半角 255 文字以内になるようにしてください。半角 255 文字分を超えるとバックアップできません。
個数	バックアップするデバイスの個数を入力します。 MEMO ・ バックアップできるデバイスの最大個数は、そのデバイスのデータタイプなどにより異なります。 ・ [デバイスアドレス] にシンボルを選択した場合は自動で設定されます。 ・ STRING のデバイスをバックアップする場合は、バックアップするバイト数を設定してください。

設定項目	設定内容
データタイプ	保存するデータのデータタイプを選択します。 アクセス可能なタグのデータタイプについては、「■ アクセス可能なタグのデータタイプ」を参照してください。 MEMO ・ [デバイスアドレス] にシンボルを選択した場合は自動で設定されます。 ・ [文字列] を選択し、[保存形式] を [CSV] に設定する場合は、次の点にご注意ください。 ・ NULL 終端までの文字列がバックアップされます。 ・ デバイスに NULL 以外の制御コードが含まれた場合はバックアップできません。 ・ デバイスの末尾バイト (または個数の最終バイト) に、マルチバイト文字の 1 バイト目が含まれる場合は、末尾バイト (または最終バイト) の前の文字列までバックアップされます。
データ表記	[保存形式] を [CSV] に設定している場合にデータ表記を選択します。
保存先フォルダ	ファイルの保存先フォルダを設定します。[参照] ボタンをクリックして選択するか、直接入力します。
ファイル名	保存するファイル名を入力します。初期状態では、選択した局名、デバイスアドレス、保存形式、データタイプによってファイル名が変わるようになっています。
保存形式	データの保存形式を選択します。 ・ BIN バイナリデータとして保存します。 大容量のデータを保存する場合に適しています。ただし、バックアップしたデータをパソコン上で確認／編集することはできません。 ・ CSV CSV データとして保存します。 バックアップしたデータをパソコン上で確認／編集することができます。

■ アクセス可能なタグのデータタイプ

		デバイスサイズおよびタグのデータタイプ								
		1	8	16	32			64	STRING	
		BOOL	BYTE SINT USINT	WORD INT UINT	DWORD DINT UDINT REAL	DATE	TIME	TIME_OF_DAY		DATE_AND_TIME
デバイスの バックアップ で設定するデータ タイプ	ビット	○	×	○ ※1	○ ※1	×	×	×	×	×
	8 ビット	×	○	×	×	×	×	×	×	×
	16 ビット	×	×	○	○	×	×	×	×	×
	32 ビット	×	×	○	○	○	○	○	×	×
	64 ビット	×	×	×	×	×	×	×	○	×
	文字列	×	×	○	○	×	×	×	×	○

※1 ご使用のドライバにより設定できない場合があります。